

2014/7/15

柏の景気情報（平成26年6月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 経営支援一課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成26年6月分）

○ 調査期間 : 平成26年6月19日 ~ 6月24日

○ 調査対象 : 柏市内156事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	156	85	54.5%
建設	44	25	56.8%
製造	33	16	48.5%
卸・小売	43	28	65.1%
サービス	36	16	44.4%

○ 調査方法 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。
と調査表

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1 増加他の回答割合 - 3 減少他の回答割合$$

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成26年6月の調査結果のポイント】

《業況DIは3ヶ月連続悪化。見通しは改善されるも依然厳しい状況》

○6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲27.0(前月水準▲23.5)となり、マイナス幅が3.5ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲4.0(▲前月水準▲20.8)である。プラスからマイナスに転じた業種は、サービス業▲6.2(同±0.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲31.2(同▲11.7)、卸小売業▲57.1(同▲46.4)である。

【建設業】からは、「なんとなく動きが悪いような感じがする。補助金、減税制度が充実しているので、PRを工夫していきたい」(一般土木建築工事業)、「石油製品である原材料の高騰が続いている。一方で施工単価は4月に入り下落している。見積り依頼はかなりあるが、施工単価が安すぎて、利益どころか経費さえも見込めないような低単価となっている。数ヶ月前の物件は確保出来ているものの、今後の受注が厳しくなりそう。取引先ほぼ全社からの値下げ要求で厳しい単価となっている。消費税増税に係る物件の反動減のための競争の低単価なのか、低単価過ぎて業者を確保出来なく工期が遅れた物件も出ている。また、豪雨による工期の遅れもあり、今後の仕事の集中に混乱が起きそう。業況変化が懸念される」(その他の職別工事業)、「消費税増税後のためか、民間からの問い合わせは減少。公共事業、耐震工事に付随する形で仕事の受注はあるが、下請けという立場もあり、薄利または利益のないものが多い」(塗装工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「医療用製品関係の受注は好調だが、工事案件は不安定で計画通りに進まず不調」(特殊産業用機械)、「前年度と比較してみると、増税後の売上は回復していない。業種によるのかもと思うが、全体的に慎重になっている」(印刷業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「消費税アップ後も当社では安定・微増しているが、業界的にはかなりダメージがあり、専らそのような話題が多い。ただ、ここに来て見切り商品もかなり出ているので、うまく利用すれば商粗利を確保出来るのではないかと考える」(婦人・子供服小売業)、「値上ラッシュ(特に石油に係る製品が多い)が続いている。秋にかけて衣料品、靴、カバン類の定番商品の値上げ申請あり。秋以降の売上が心配です」(その他の飲食良品小売業)、「時計・宝飾品の高額品及び化粧品といった増税特需の恩恵を受けた商材は5月に続き苦戦継続。ただし、美術・宝飾では増税影響に関係なく、単価の高い商材の動きが一部ではあるが見られるようになってきている。中元ギフトは客単価・商品単価とも前年並みで推移。衣料品は序盤婦人服の前年割れが継続。月末のセールスタートに期待をしている」(百貨店)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「賃貸需要は繁忙期に期待するも、増税、人件費、材料費の高騰からくるリフォーム、修繕費の高騰を懸念。しかしながら、現状賃料への転嫁は難しいと考えています」(不動産賃貸・管理業)、「法人需要では、前月同様、秋の職場旅行、招待旅行の案件が活性化している。国土交通省定めによる新貸切バスの運賃制度による貸切バス代金の上昇。個人需要では、某テレビ小説の効果で、秋のカナダが熟年に人気。夏から秋にかけてフランス周遊・美術館めぐりが女性グループに人気。また、国内では前月に引き続き夏休み期間の某テーマパークが人気。新しく発売になった商品による入場待ち時間短縮により。また、紅葉時期の京都、栃木方面の問い合わせが増えている」(旅行業)などのコメントが寄せられた。

◎原材料費高騰

各業種から、「工事の受注は増加してきたが、材料、経費の上昇で予算が合わない。積算の見直しに迫られている」(一般土木建築工事業)、「ステンレス原料のニッケル地金価格の上昇に続き、国内アルミ地金価格も上昇した。原料価格の高騰により、機械原価率への影響が懸念される」(その他の機械・同部品製造業)などのコメントが寄せられた。

◎人手不足

各業種から、「アルバイトの募集に対し、応募が無くなってきています。長期休みの希望が多くなり、シフトが組みにくくなっています。飲食業を嫌がる傾向にある様です」(酒場・ビヤホール)、「提案案件が多く、具体的な方向性が定まらないのが現状。提案の過半数クリアを期待している。ただ、人手不足が懸念される」(ソフトウェア業)などのコメントが寄せられた。

◎燃料費高騰

各業種から、「材料価格、ガソリン等の仕入価格上昇。海外との競争力低下につながる。電力費が対前年で15%アップしており、利益を圧迫している」(金属素材製品製造業)、「軽油価格高騰によるコスト増が経営を悪化させている」(一般貨物自動車運送業)などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
1月	▲2.2	△29.1	△22.2	▲40.6	±0.0
2月	▲17.6	▲16.6	±0.0	▲35.7	▲6.6
3月	▲11.2	△4.5	±0.0	▲32.1	▲6.6
4月	▲15.4	▲15.3	△11.1	▲42.8	△8.3
5月	▲23.5	▲20.8	▲11.7	▲46.4	±0.0
6月	▲27.0	▲4.0	▲31.2	▲57.1	▲6.2
見通し	▲9.4	▲4.0	△12.5	▲32.1	±0.0

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成26年6月の業況についての状況】

○ 6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲27.0(前月水準▲23.5)となり、マイナス幅が3.5ポイント拡大した。

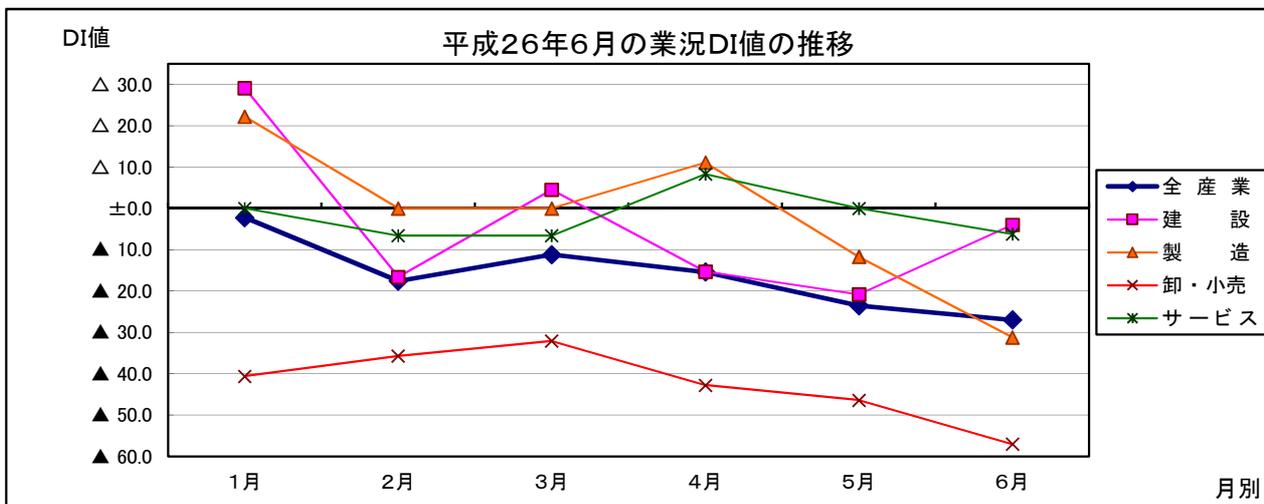
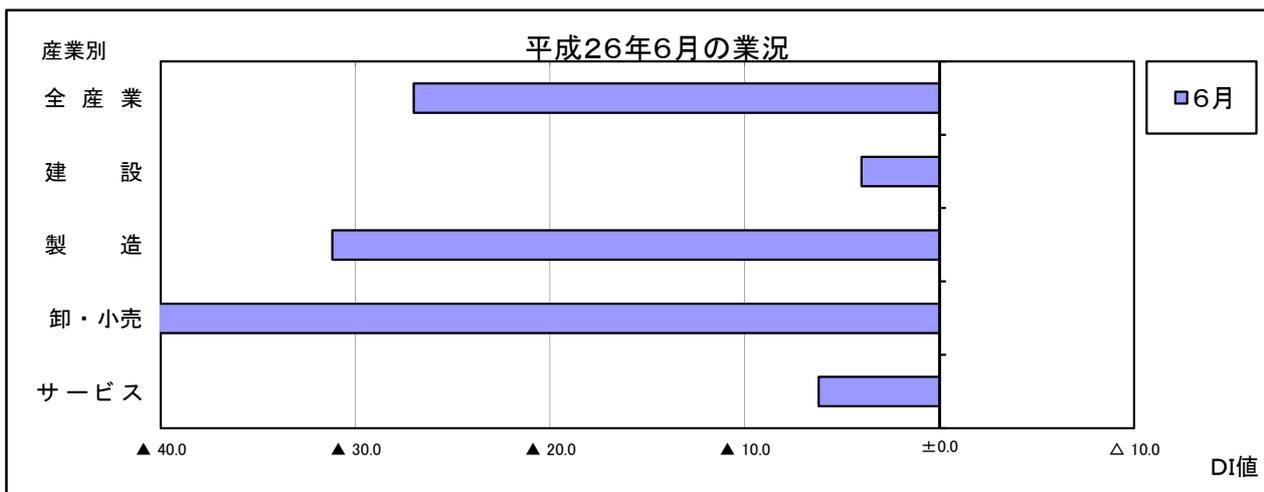
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲4.0(▲前月水準▲20.8)である。プラスからマイナスに転じた業種は、サービス業▲6.2(同±0.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲31.2(同▲11.7)、卸小売業▲57.1(同▲46.4)である。

○ 向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、▲9.4(前月水準▲11.7)となり、マイナス幅が2.3ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、製造業△12.5(同△11.7)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲32.1(同▲42.8)、建設業▲4.0(同▲4.1)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業±0.0(同△6.2)である。

平成26年6月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成26年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月~9月(6月~8月)
全産業	▲2.2	▲17.6	▲11.2	▲15.4	▲23.5	▲27.0	▲9.4(▲11.7)
建設	△29.1	▲16.6	△4.5	▲15.3	▲20.8	▲4.0	▲4.0(▲4.1)
製造	△22.2	±0.0	±0.0	△11.1	▲11.7	▲31.2	△12.5(△11.7)
卸・小売	▲40.6	▲35.7	▲32.1	▲42.8	▲46.4	▲57.1	▲32.1(▲42.8)
サービス	±0.0	▲6.6	▲6.6	△8.3	±0.0	▲6.2	±0.0(△6.2)



【平成26年6月の売上についての状況】

○6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲10.5(前月水準▲23.5)となり、マイナス幅が13.0ポイント縮小した。

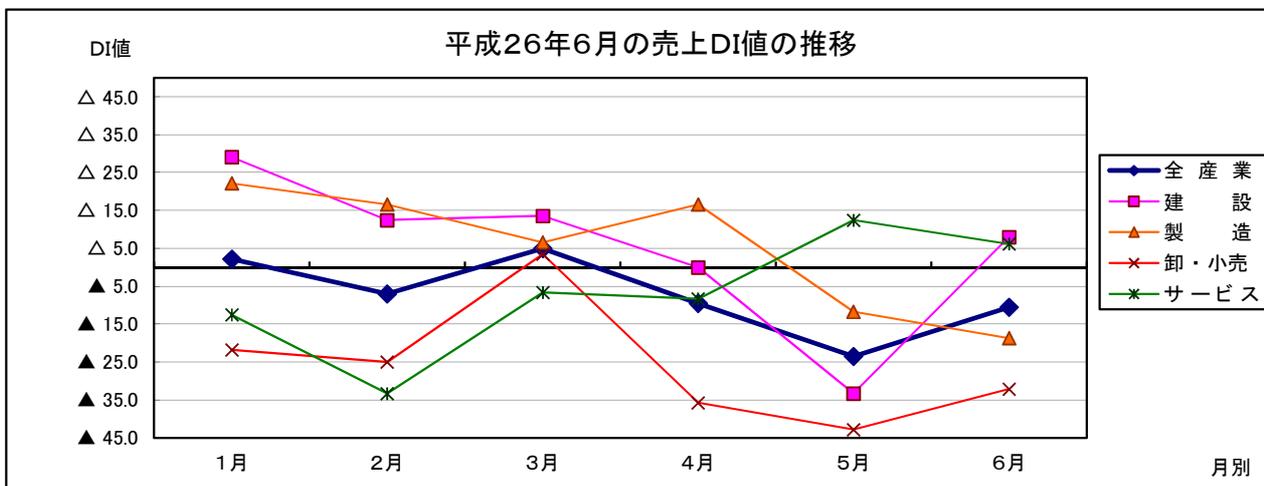
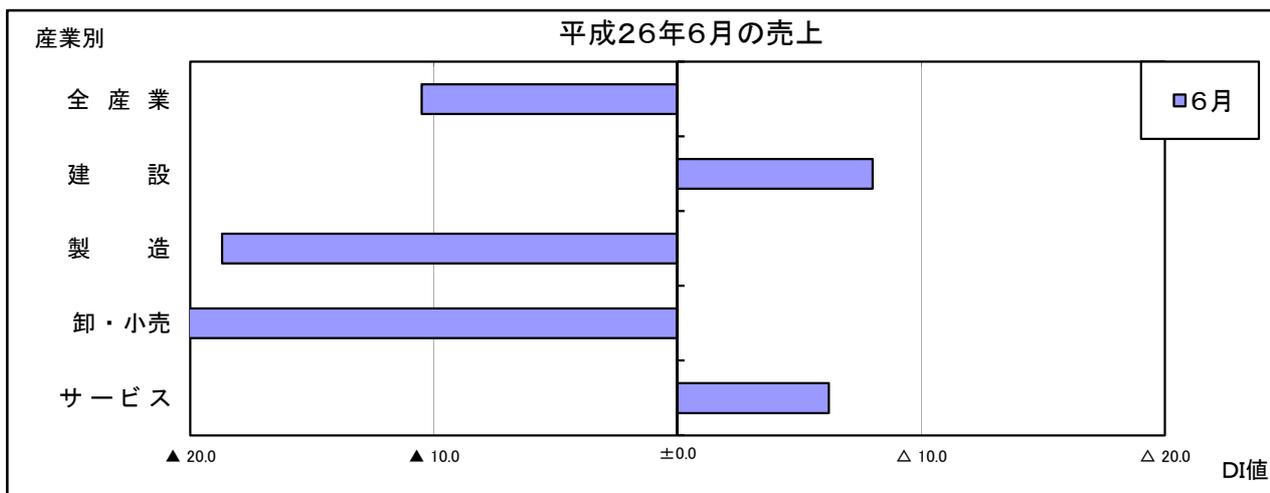
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、建設業△8.0(同▲33.3)であり、41.3ポイントと大幅改善した。マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲32.1(同▲42.8)である。プラス幅が縮小した業種は、サービス業△6.2(同△12.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲18.7(同▲11.7)である。

○向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、△2.3(前月水準▲11.7)となり、プラス方向へ14.0ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に建設業△24.0(同±0.0)、サービス業△18.7(同△6.2)であり、建設業では24.0ポイントと大幅に拡大する見通しである。マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、製造業△6.2(同▲5.8)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲28.5(同▲35.7)である。

平成26年6月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成26年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月~9月(6月~8月)
全産業	△2.2	▲7.0	△5.0	▲9.5	▲23.5	▲10.5	△2.3(▲11.7)
建設	△29.1	△12.5	△13.6	±0.0	▲33.3	△8.0	△24.0(±0.0)
製造	△22.2	△16.6	△6.6	△16.6	▲11.7	▲18.7	△6.2(▲5.8)
卸・小売	▲21.8	▲25.0	△3.5	▲35.7	▲42.8	▲32.1	▲28.5(▲35.7)
サービス	▲12.5	▲33.3	▲6.6	▲8.3	△12.5	△6.2	△18.7(△6.2)



【平成26年6月の採算についての状況】

○ 6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲30.5(前月水準▲31.7)となり、マイナス幅が1.2ポイント縮小した。

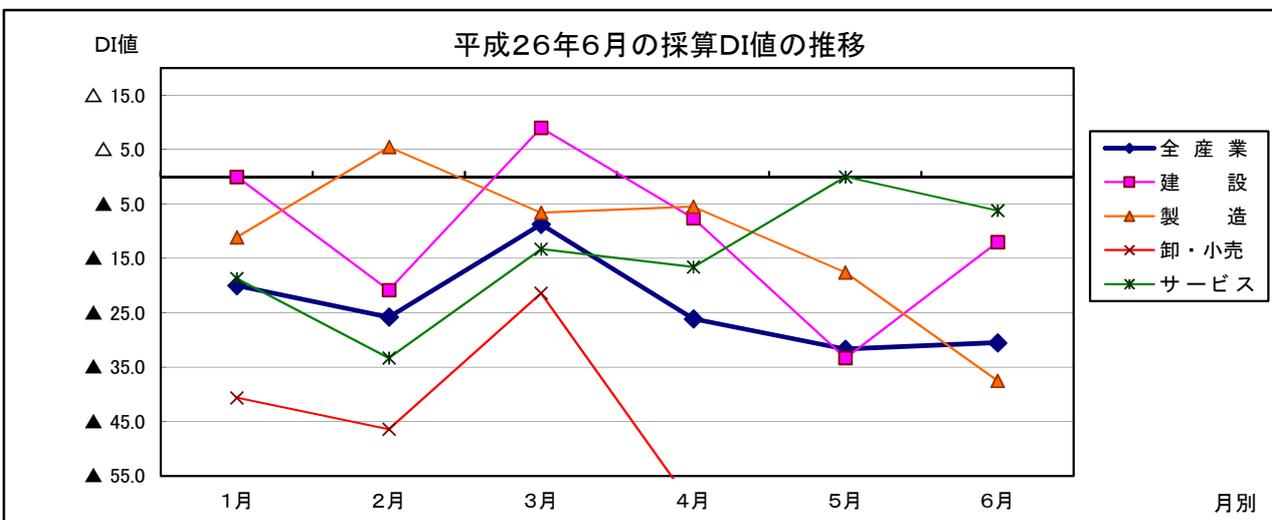
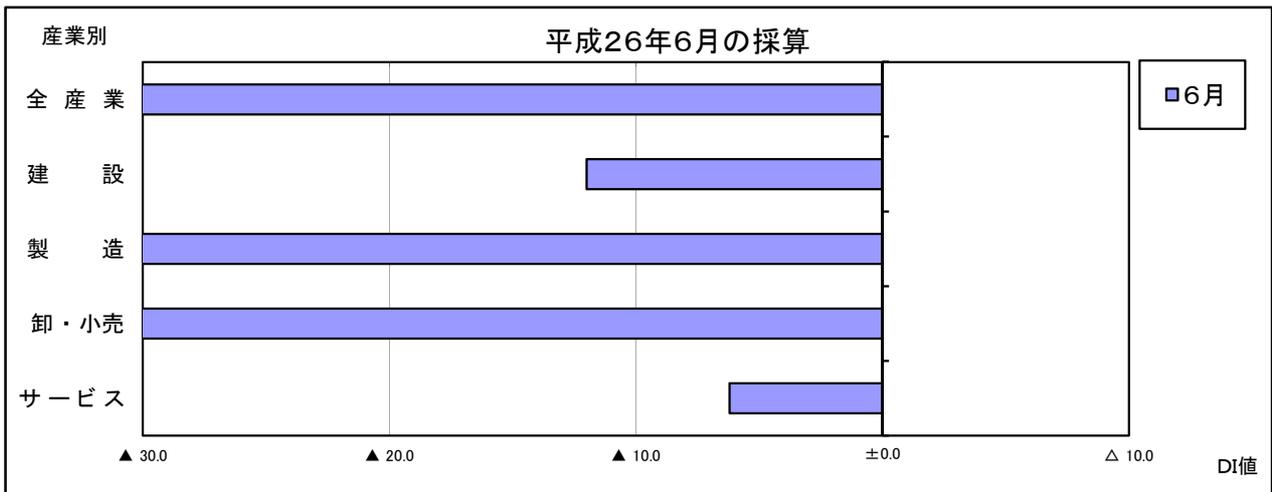
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲12.0(同▲33.3)であり、マイナス幅が21.3ポイントと大幅に縮小した。変わらない業種は、卸小売業▲57.1(同▲57.1)である。プラスからマイナスに転じた業種は、サービス業▲6.2(同±0.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲37.5(同▲17.6)である。

○ 向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、▲17.6(前月水準▲23.5)となり、マイナス幅が5.9ポイント縮小する見通しである。

マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、サービス業±0.0(同▲12.5)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に卸小売業▲39.2(同▲50.0)、建設業▲12.0(▲16.6)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、製造業▲6.2(同±0.0)である。

平成26年6月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成26年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月~9月(6月~8月)
全産業	▲20.0	▲25.8	▲8.7	▲26.1	▲31.7	▲30.5	▲17.6(▲23.5)
建設	±0.0	▲20.8	△9.0	▲7.6	▲33.3	▲12.0	▲12.0(▲16.6)
製造	▲11.1	△5.5	▲6.6	▲5.5	▲17.6	▲37.5	▲6.2(±0.0)
卸・小売	▲40.6	▲46.4	▲21.4	▲60.7	▲57.1	▲57.1	▲39.2(▲50.0)
サービス	▲18.7	▲33.3	▲13.3	▲16.6	±0.0	▲6.2	±0.0(▲12.5)



【平成26年6月の仕入単価についての状況】

○6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲49.4(前月水準▲50.5)となり、マイナス幅が1.1ポイント縮小した。

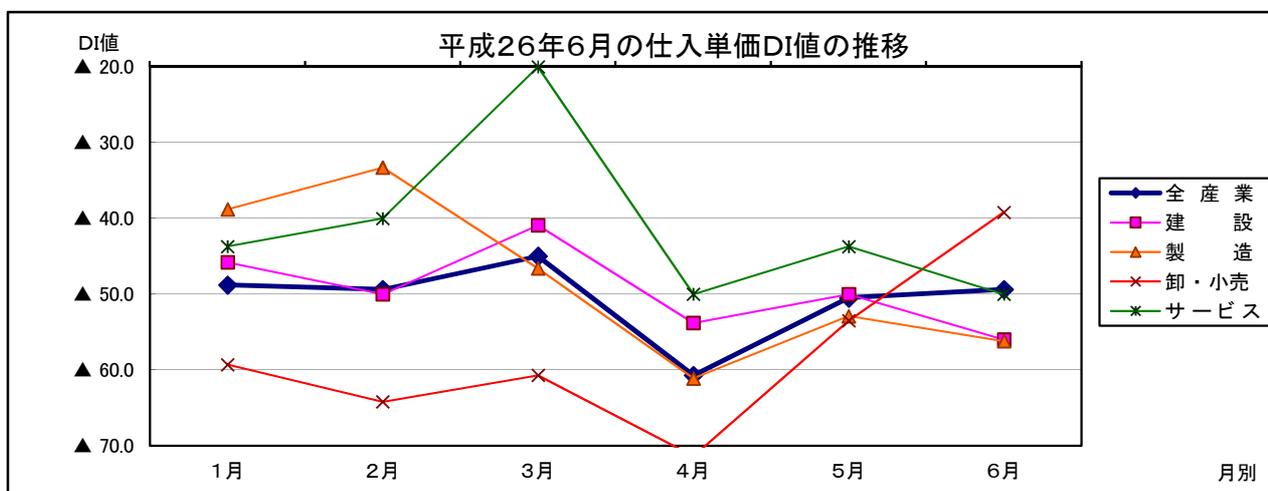
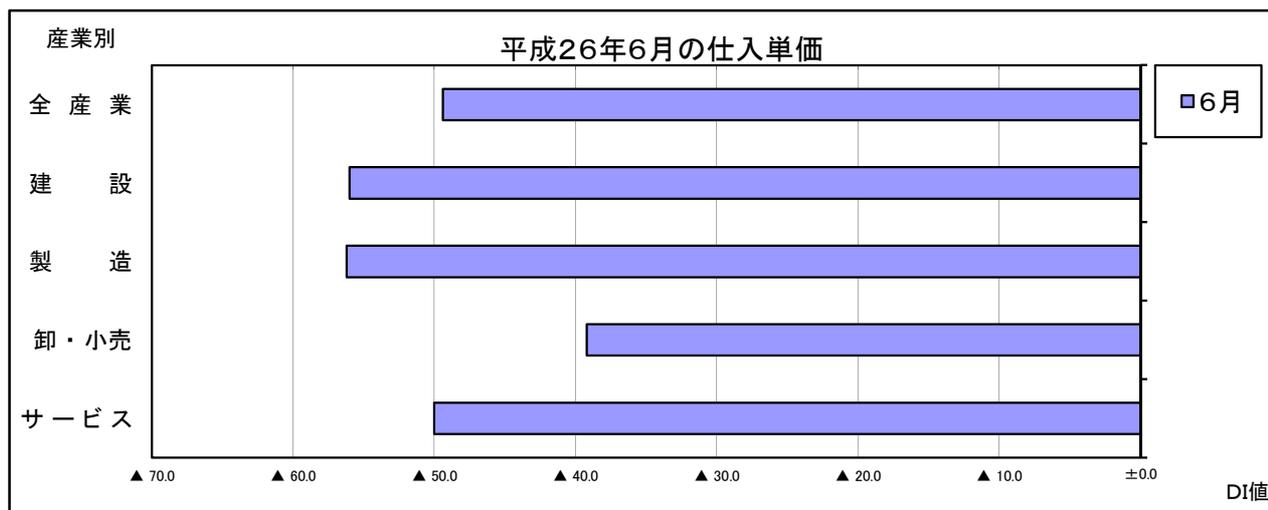
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲39.2(同▲53.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲50.0(同▲43.7)、建設業▲56.0(同▲37.5)、製造業▲56.2(同▲52.9)である。

○向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、▲35.2(前月水準▲38.8)となり、マイナス幅が3.6ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲18.7(同▲35.2)、卸小売業▲39.2(同▲42.8)、建設業▲36.0(同▲37.5)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業▲43.7(▲37.5)である。

平成26年6月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成26年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月~9月(6月~8月)
全産業	▲48.8	▲49.4	▲45.0	▲60.7	▲50.5	▲49.4	▲35.2(▲38.8)
建設	▲45.8	▲50.0	▲40.9	▲53.8	▲50.0	▲56.0	▲36.0(▲37.5)
製造	▲38.8	▲33.3	▲46.6	▲61.1	▲52.9	▲56.2	▲18.7(▲35.2)
卸・小売	▲59.3	▲64.2	▲60.7	▲71.4	▲53.5	▲39.2	▲39.2(▲42.8)
サービス	▲43.7	▲40.0	▲20.0	▲50.0	▲43.7	▲50.0	▲43.7(▲37.5)



【平成26年6月の従業員についての状況】

○6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△2.3(前月水準▲1.1)となり、プラス方向へ3.4ポイント拡大した。

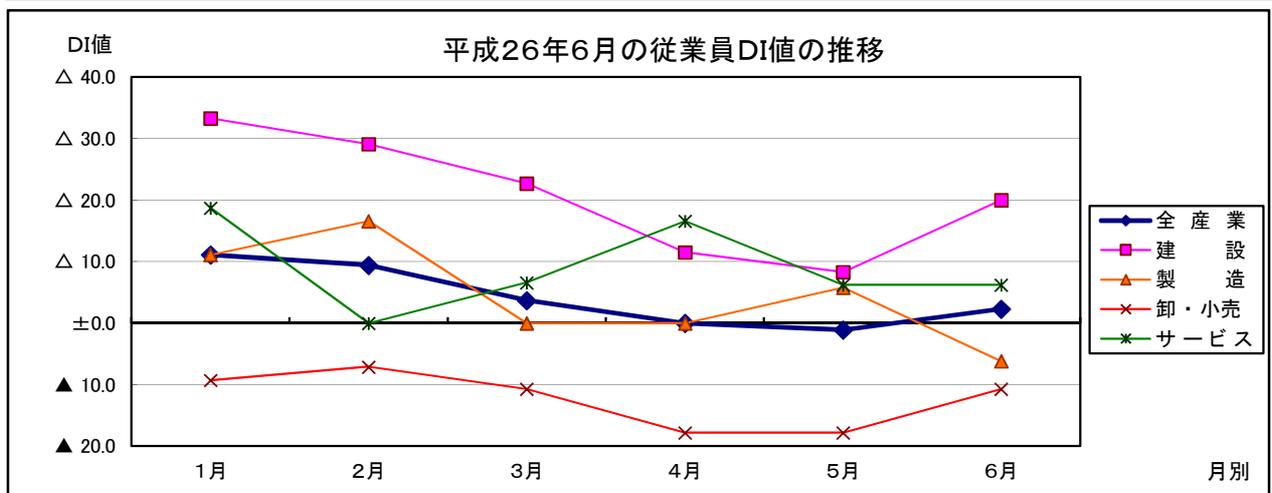
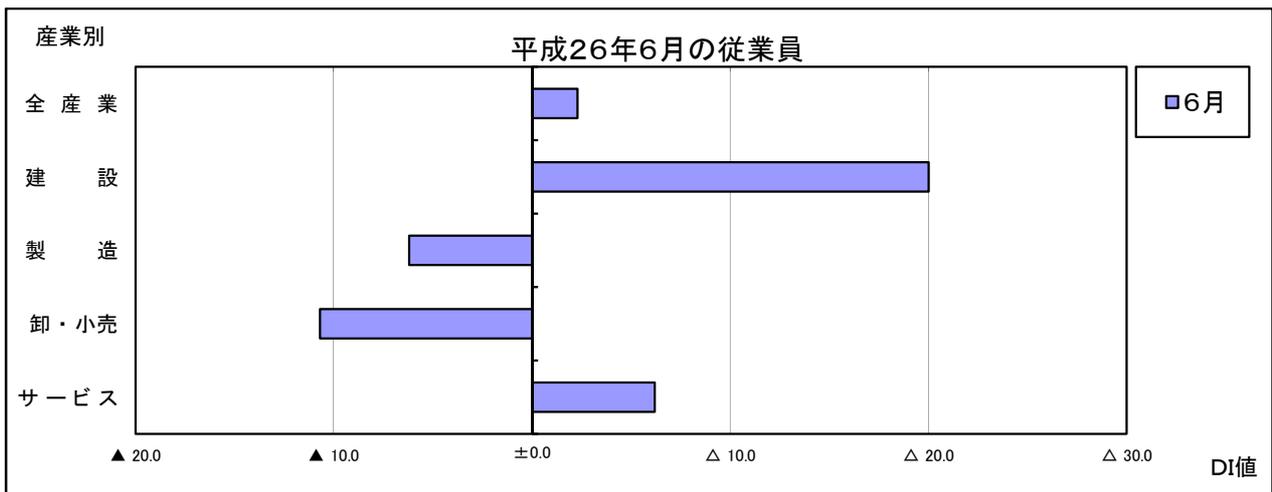
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、建設業△20.0(同△8.3)である。マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲10.7(▲17.8)である。変らない業種は、サービス業△6.2(同△6.2)である。プラスからマイナスへ転じた業種は、製造業▲6.2(同△5.8)である。

○向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、△4.7(前月水準±0.0)となり、プラス幅が4.7ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業△24.0(同△4.1)、サービス業△18.7(△6.2)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲10.7(同▲14.2)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、製造業▲12.5(同△11.7)である。

平成26年6月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成26年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月~9月(6月~8月)
全産業	△11.1	△9.4	△3.7	±0.0	▲1.1	△2.3	△4.7(±0.0)
建設	△33.3	△29.1	△22.7	△11.5	△8.3	△20.0	△24.0(△4.1)
製造	△11.1	△16.6	±0.0	±0.0	△5.8	▲6.2	▲12.5(△11.7)
卸・小売	▲9.3	▲7.1	▲10.7	▲17.8	▲17.8	▲10.7	▲10.7(▲14.2)
サービス	△18.7	±0.0	△6.6	△16.6	△6.2	△6.2	△18.7(△6.2)



【平成26年6月の資金繰りについての状況】

○ 6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲15.2(前月水準▲14.1)となり、マイナス幅が0.9ポイント拡大した。

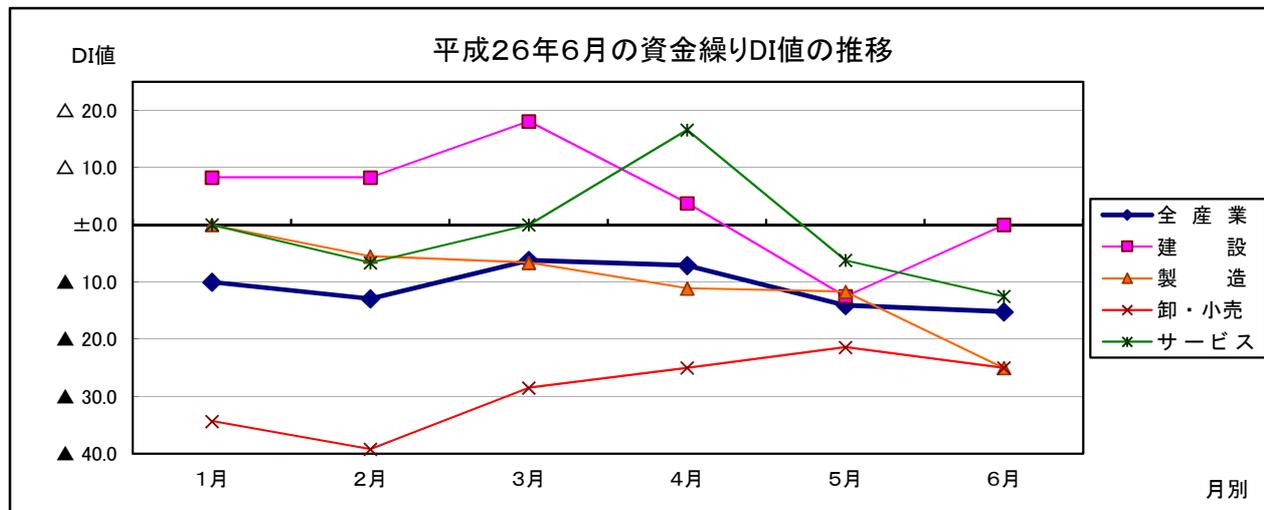
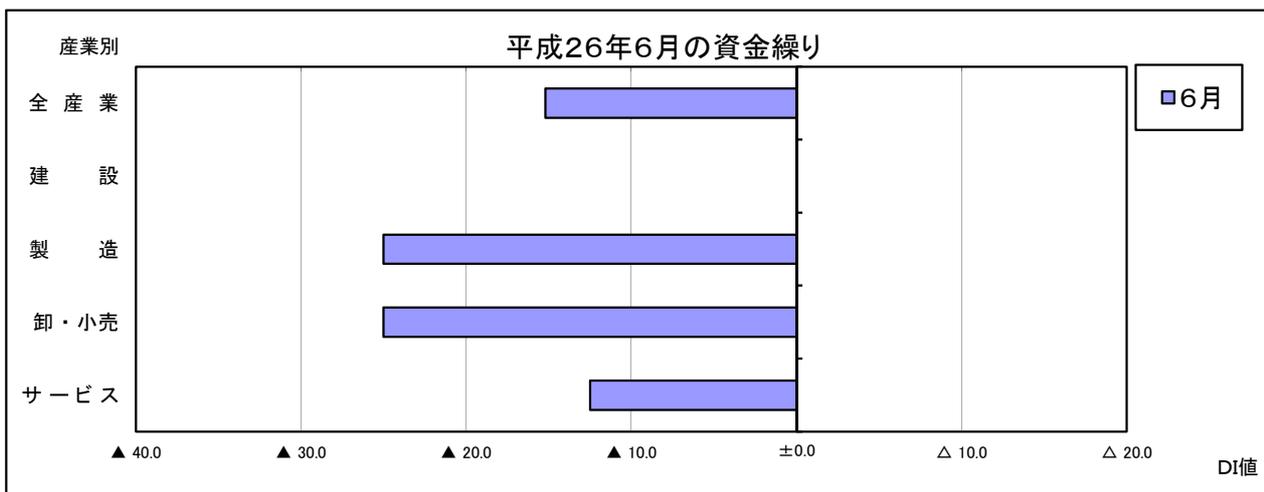
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスへ転じた業種は、建設業±0.0(同▲12.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲25.0(▲11.7)、サービス業▲12.5(▲6.2)、卸小売業▲25.0(▲21.4)である。

○ 向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、▲12.9(前月水準▲9.4)となり、マイナス幅が3.5ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、建設業▲4.0(同▲4.1)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、サービス業▲12.5(同±0.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲21.4(同▲17.8)、製造業▲12.5(同▲11.7)である。

平成26年6月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成26年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月~9月(6月~8月)
全産業	▲10.0	▲12.9	▲6.2	▲7.1	▲14.1	▲15.2	▲12.9(▲9.4)
建設	△8.3	△8.3	△18.1	△3.8	▲12.5	±0.0	▲4.0(▲4.1)
製造	±0.0	▲5.5	▲6.6	▲11.1	▲11.7	▲25.0	▲12.5(▲11.7)
卸・小売	▲34.3	▲39.2	▲28.5	▲25.0	▲21.4	▲25.0	▲21.4(▲17.8)
サービス	±0.0	▲6.6	±0.0	△16.6	▲6.2	▲12.5	▲12.5(±0.0)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 10.5	△ 2.3	▲ 30.5	▲ 17.6	▲ 49.4	▲ 35.2	△ 2.3	△ 4.7
建設	△ 8.0	△ 24.0	▲ 12.0	▲ 12.0	▲ 56.0	▲ 36.0	△ 20.0	△ 24.0
製造	▲ 18.7	△ 6.2	▲ 37.5	▲ 6.2	▲ 56.2	▲ 18.7	▲ 6.2	▲ 12.5
卸・小売	▲ 32.1	▲ 28.5	▲ 57.1	▲ 39.2	▲ 39.2	▲ 39.2	▲ 10.7	▲ 10.7
サービス	△ 6.2	△ 18.7	▲ 6.2	±0.0	▲ 50.0	▲ 43.7	△ 6.2	△ 18.7

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 27.0	▲ 9.4	▲ 15.2	▲ 12.9
建設	▲ 4.0	▲ 4.0	±0.0	▲ 4.0
製造	▲ 31.2	△ 12.5	▲ 25.0	▲ 12.5
卸・小売	▲ 57.1	▲ 32.1	▲ 25.0	▲ 21.4
サービス	▲ 6.2	±0.0	▲ 12.5	▲ 12.5

【平成26年6月の業種別業界内トピックス】

業種別	概況	キーワード	業種
建設	なんとなく動きが悪いような感じがする。補助金、減税制度が充実しているので、PRを工夫していきたい。	補助金 減税制度	一般土木建築工事業
	工事の受注は増加してきたが、材料、経費の上昇で予算が合わない。積算の見直しに迫られている。	受注増加 原材料費高騰 経費上昇 不採算	電気工事業
	畳縁(ヘリ)の仕入単価はどんどん上がっていますが、今月、畳縁見本のリニューアルをし、新しい畳縁を入荷。畳縁はとても種類が多く、絞り込むのが大変でした。	原材料費高騰	内装工事業
	今まさに住宅業界の市場は縮小し出していますが、一方で町の弱小工務店が大手メーカーやパワービルダー、大手リフォーム会社と対等に戦える時代になりつつあると思います。熟練大工の減少、業者不足、地域密着型の優位性、採算管理の伸びしろ、資金調達。どれも積極的に工務店経営をしていく会社にはフォローの風と言えると思います。	市場縮小 人手不足 業者不足 地域密着型の優位性 採算管理 資金調達	一般土木建築工事業
	消費税増税後のためか、民間からの問い合わせは減少。公共事業、耐震工事に付随する形で仕事の受注はあるが、下請けという立場もあり、薄利または利益のないものが多い。	増税後の反動減 不採算	塗装工事業
	石油製品である原材料の高騰が続いている。一方で施工単価は4月に入り下落している。見積り依頼はかなりあるが、施工単価が安すぎて、利益どころか経費さえも見込めないような低単価となっている。数ヶ月前の物件は確保出来ているものの、今後の受注が厳しくなりそう。取引先ほぼ全社からの値下げ要求で厳しい単価となっている。消費税増税に係る物件の反動減のための競争の低単価なのか、低単価過ぎて業者を確保出来なく工期が遅れた物件も出ている。また、豪雨による工期の遅れもあり、今後の仕事の集中に混乱が起きそう。業況変化が懸念される。	原材料費高騰 施工単価下落 不採算 値下げ要求 増税後の反動減 業者不足 豪雨 工期遅延	その他の職別工事業
製造業	材料価格、ガソリン等の仕入価格上昇。海外との競争力低下につながる。電力費が対前年で15%アップしており、利益を圧迫している。	原材料費高騰 燃料費高騰 電力費上昇	金属素形材製品製造業
	医療用製品関係の受注は好調だが、工事案件は不安定で計画通りに進まず不調。	医療用製品関係好調 工事案件不安定	特殊産業用機械
	ステンレス原料のニッケル地金価格の上昇に続き、国内アルミ地金価格も上昇した。原料価格の高騰により、機械原価率への影響が懸念される。	原材料費高騰	その他の機械・同部品製造業
	ゴールデンウィーク前の前倒し発注で想定された程の落ち込みは回避されたが、そうした反動から連休明けには本格的に需要が落ち込むと警戒している。	ゴールデンウィーク 前倒し需要の反動減	紙製容器製造業
	前年度と比較してみると、増税後の売上は回復していない。業種によるのかとも思うが、全体的に慎重になっている。	増税後の反動減	印刷業
時計・宝飾品の高額品及び化粧品といった増税特需の恩恵を受けた商材は5月に続き苦戦継続。ただし、美術・宝飾では増税影響に関係なく、単価の高い商材の動きが一部ではあるが見られるようになっている。中元ギフトは客単価・一商品単価とも前年並みで推移。衣料品は序盤婦人服の前年割れが継続。月末のセールスタートに期待をしている。	増税前特需 増税後の反動減 中元ギフト 一部高額商品好調 月末のセール	百貨店	

【平成26年6月の業種別業界内トピックス】

卸小売	消費税アップ後も当社では安定・微増しているが、業界的にはかなりダメージがあり、専らそのような話題が多い。ただ、ここに来て見切り商品もかなり出ているので、うまく利用すれば商粗利を確保出来るのではないかと考える。	消費税増税	婦人・子供服小売業
	16号沿いに大型電気店が9月に出店する。三つ巴となり競争力は激化しそうだ。それにしても7607㎡(2300坪)は大きすぎ。	大型電気店競争激化	書籍・文房具小売業
	梅雨入り後の大雨やその後の晴天気温高の気候の変動による客足の減少が響いた。	気候変動客足減少	菓子・パン小売業
	青果物の現状は、野菜では順調な生育から主要品目の増加があり、平均単価も高値取引の活発な動きから、産地情報から入荷の減少、消費者の購買先の変化などまちまちな取引でやや減少傾向にあります。また、果物でも今年に入り雪害や長雨など産地被害が入荷を減少させ、一部単価高の推移で、一部には増加取引もあるが、総体的に減少傾向で推移しています。また、全国からの情報では、地元の活性化として新たな地元の青果物を開発してイベントに活用している動きがあります。卸市場としてその需要と供給に比べられるように産地からの情報を連携する立場を活かしていきたい。	青果物高値取引 雪害・長雨 地元青果物の開発	食料・飲料卸売業
	値上ラッシュ(特に石油に関係する製品が多い)が続いている。秋にかけて衣料品、靴、カバン類の定番商品の値上げ申請あり。秋以降の売上が心配です。近くに戸建ての住宅団地(1ヶ所で100世帯、90世帯、35世帯)が出来るので、商売に繋がることを期待する。業況は、顧客サービス・カード加入サービスで来店客が増加し、急上昇している。	仕入単価上昇 カード会員 業況急上昇	その他の飲食良品小売業
サービス	アルバイトの募集に対し、応募が無くなってきています。長期休みの希望が多くなり、シフトが組みにくくなっています。飲食業を嫌がる傾向にある様です。	アルバイト応募減 人手不足	酒場・ビヤホール
	軽油価格高騰によるコスト増が経営を悪化させている。	燃料費高騰	一般貨物自動車運送業
	法人需要では、前月同様、秋の職場旅行、招待旅行の案件が活性化している。国土交通省定めによる新貸切バスの運賃制度による貸切バス代金の上昇。個人需要では、某テレビ小説の効果で、秋のカナダが熟年に人気。夏から秋にかけてフランス周遊・美術館めぐりが女性グループに人気。また、国内では前月に引き続き夏休み期間の某テーマパークが人気。新しく発売になった商品による入場待ち時間短縮により、また、紅葉時期の京都、栃木方面の問い合わせが増えている。	法人需要の活発化 新貸切バス運賃制度 テレビ小説効果 テーマパーク シーズン商品	旅行業
	お客様からの問い合わせは多くなっています。契約になるまでは時間がかかっており、値引き要求も厳しい状況です。また、資材の高騰、人手不足(建築)です。	値引き要求 原材料費高騰 人手不足	不動産管理業
	不動産、特に居住用に関しては、行政のさじ加減ひとつ。学区や道路等に左右されますので、慎重に行っていただきたいと思えます。		不動産賃貸業
	賃貸需要は繁忙期に期待するも、増税、人件費、材料費の高騰からくるリフォーム、修繕費の高騰を懸念。しかしながら、現状賃料への転嫁は難しいと考えています。	消費税増税 人件費増 原材料費高騰 修繕費高騰 価格転嫁	不動産賃貸・管理業
提案案件が多く、具体的な方向性が定まらないのが現状。提案の過半数クリアを期待している。ただ、人手不足が懸念される。	人手不足	ソフトウェア業	

◎原材料費高騰

工事の受注は増加してきたが、材料、経費の上昇で予算が合わない。積算の見直しに迫られている。

一般土木建築工事業

ステンレス原料のニッケル地金価格の上昇に続き、国内アルミ地金価格も上昇した。原料価格の高騰により、機械原価率への影響が懸念される。

その他の機械・同部品製造業

◎人手不足

アルバイトの募集に対し、応募が無くなってきています。長期休みの希望が多くなり、シフトが組みにくくなっています。飲食業を嫌がる傾向にある様です。

酒場・ビヤホール

提案案件が多く、具体的な方向性が定まらないのが現状。提案の過半数クライアントを期待している。ただ、人手不足が懸念される。

ソフトウェア業

◎燃料費高騰

材料価格、ガソリン等の仕入価格上昇。海外との競争力低下につながる。電力費が対前年で15%アップしており、利益を圧迫している。

金属素形材製品製造業

軽油価格高騰によるコスト増が経営を悪化させている。

一般貨物自動車運送業

平成26年6月CCI - LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲27.0に対し、「CCI-LOBO」が▲20.3で柏の方がマイナス幅が6.7ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種はサービス業で、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は建設業、製造業、卸小売業で、製造業、卸小売業では10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲10.5に対し、「CCI-LOBO」が▲15.8で柏の方がマイナス幅が5.3ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は建設業、卸小売業、サービス業で、サービス業では10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業で、10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲30.5に対し、「CCI-LOBO」が▲22.6で柏の方がマイナス幅が7.9ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、サービス業で、サービス業では10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業、卸小売業で、10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲49.4に対し、「CCI-LOBO」が▲50.3で、柏の方がマイナス幅が0.9ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は建設業、卸小売業で、建設業では10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業、サービス業である。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が2.3に対し、「CCI-LOBO」が10.8で柏の方がプラス幅が8.5ポイント小さい。業種別では全ての業種で「柏の景気」の方が悪く、製造業、卸小売業では10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲15.2に対し、「CCI-LOBO」が▲12.8で柏の方がマイナス幅が2.4ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は建設業である。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業、卸小売業、サービス業で、製造業では10ポイント以上悪い。

平成26年6月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI-LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI \geq 50	好調 50>DI \geq 25	まあまあ 25>DI \geq 0	不振 0>DI \geq ▲25	極めて不振 ▲25>DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 27.0	 ▲ 4.0	 ▲ 31.2	 ▲ 57.1	 ▲ 6.2
CCI-LOBO	 ▲ 20.3	 ±0.0	 ▲ 11.7	 ▲ 44.4	 ▲ 17.1

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 10.5	 △ 8.0	 ▲ 18.7	 ▲ 32.1	 △ 6.2
CCI-LOBO	 ▲ 15.8	 ▲ 0.8	 ▲ 2.0	 ▲ 41.4	 ▲ 10.6

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 30.5	 ▲ 12.0	 ▲ 37.5	 ▲ 57.1	 ▲ 6.2
CCI-LOBO	 ▲ 22.6	 ▲ 12.7	 ▲ 16.0	 ▲ 41.2	 ▲ 18.4

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 49.4	 ▲ 56.0	 ▲ 56.2	 ▲ 39.2	 ▲ 50.0
CCI-LOBO	 ▲ 50.3	 ▲ 69.9	 ▲ 53.0	 ▲ 39.5	 ▲ 48.5

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 △ 2.3	 △ 20.0	 ▲ 6.2	 ▲ 10.7	 △ 6.2
CCI-LOBO	 △ 10.8	 △ 21.3	 △ 6.9	 △ 10.4	 △ 13.6

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 15.2	 ±0.0	 ▲ 25.0	 ▲ 25.0	 ▲ 12.5
CCI-LOBO	 ▲ 12.8	 ▲ 6.8	 ▲ 8.9	 ▲ 22.8	 ▲ 11.4

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測(6月速報)

調査期間：平成26年6月13日～19日

調査対象：全国の422商工会議所が3143企業
組合等にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、3ヶ月ぶりに改善。先行きは慎重な見方が
あるも、回復を見込む

6月の全産業合計の業況DIは、▲20.3と、前月から+1.5ポイントの改善。ただし、「悪化」から「不変」への変化が主因であることに留意が必要。仕入コストや電力料金、人件費のコスト増が続くほか、人手不足に伴い、生産・営業活動の抑制などの影響が幅広い業種で見られる。他方、建設業や自動車関連の堅調な推移に加え、小売業でも、一部で駆け込み需要の反動減から回復しつつあるとの声が聞かれる。中小企業において、反動減からの回復の実感はや種や地域、企業規模によって、まだら模様となっている。

先行きについては、先行き見通しDIが▲16.4（今月比+3.9ポイント）と、改善を見込む。ただし、コスト増加分の価格転嫁や、人手不足に伴う影響が幅広い業種で見られていることなどから、先行きに対する不透明感はまだ拭ききれない。他方で、賃上げなどを背景とする個人消費の下支えや、自動車をはじめとする製造業の本

格的な生産回復への期待もあり、夏から秋頃に持ち直すとの見方が広がりつつある。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「今夏から、公共工事の前倒し執行が見込まれるため、受注増に期待できる」（一般工事業）、「住宅などの着工が鈍化し、一部で資材価格の下落がみられたものの、依然として高止まりしているものも多く、採算は厳しい」（一般工事業）、「当面の仕事は確保できているが、人手不足のため新規受注を見送る状況が続いている」（管工事業）

【製造業】「新製品の投入や既存品のモデルチェンジにより、仕入コスト上昇分を販売価格に転嫁した」（カバン製造業）、「冷夏の予想を受けて、取引先がエアコンの生産計画を下方修正したため、受注減が見込まれる」（電子回路基板製造業）、「電力料金の負担増が続くため、夜間操業に切り替えた。今後は生産体制の効率化等の見直しも検討する」（印刷用インク製造業）

【卸売業】「受注は概ね前年並みを確保しているものの、ドライバーや運搬車両の不足に加え、燃料費の負担も重く、今後の経営が心配」（青果卸売業）、「消費税引き上げ分の価格転嫁が一部に止まっており、利益が減少」（酒類卸売業）、「仕入価格が上昇しているものの、受注を確保するためには値下げせざるを得ない」（服飾付属品卸売業）

【小売業】「売上は総じて回復しつつあるが、例年より梅雨入りが早く、長雨の影響から客足が伸び悩んでいる」（百貨店）、「電力料金の値上げによる収益圧迫を解消するため、店内の照明をLED化したほか、空調設備の入れ替えを実施」（スーパー）、「周辺地域のアルバイトの時給が上昇傾向にあり、人員確保に苦慮している」（衣料品販売店）

【サービス業】「自動車部品の荷動きが堅調なほか、飲料にも動きが出始めた。他方で、軽油価格が高止まりし、収益が圧迫されている」（運送業）、「人手が足りないため、定休日を増やしたものの、その分の利益が減少している」（飲食店）、「ビジネス客、観光客ともに堅調。先行きも、夏から秋にかけて、売上が伸

びる見込み（旅館業）

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
1月	▲3.1	18.4	1.9	▲9.1	▲14.3	▲10.4
2月	▲7.7	12.7	0.3	▲15.3	▲16.8	▲16.8
3月	▲4.4	11.0	0.6	▲5.7	▲6.3	▲17.3
4月	▲14.1	5.9	±0.0	▲20.9	▲38.2	▲14.7
5月	▲21.8	±0.0	▲12.4	▲22.9	▲50.0	▲19.1
6月	▲20.3	±0.0	▲11.7	▲25.0	▲44.4	▲17.1
見通し	▲16.4	▲0.9	▲14.3	▲19.2	▲31.8	▲12.5

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI